

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

第53回定期地本委員会圧倒的成功がとる

「中央本部」の名をこつてする定期地本委員会破壊策動を糾弾する。



第五三回定期地本委員会は、三月一二日、千葉市青雲閣において開催され圧倒的成功をかちとつた。委員会は、千葉地本に対する統制処分一組織破壊攻撃粉碎を中心とする闘いの方針を、満場一致で決定した。方針は、第三二回臨時地本大会の闘う路線を発展させ、「動労運動の変質＝私物化を糾弾」動労の戦闘的伝統を継承・発展させ、激動の八〇年代を闘い抜く労働運動を構築してゆくための闘いに一四〇〇名組合員、家族の総力をあげて決起すること。政府の二期工事一〇月強行着工宣言に対し、廃港をかけて闘う反対同盟に連帯し、三里塚・ジェット闘争を貫徹する決意を内外に宣言するものとして、3・25現地集会に総力決起することを確認した。

千葉地本委員会になぜ室井(東京地青)らも参加させなければならぬのか?

この第五三回定期地委に対し、「中央本部」が委員会破壊策動に出てきたことに対し、われわれは怒りをもって糾弾するものである。開会後の一〇時四五分頃、中央本部福田副委員長、城石組織部長、小谷、今井中執が会場へ到着し東京地本青年部室井他五名を従えて入場しようとした。地本は、中央執行委員会の四名については、入場してほしいが、青年部については入場を拒否する旨、明らかにした。強引に入場しようとしたが若干のやりとりの後に中執委四名のみがロビーに入り、青年部は外へ残るといふ形で整理された。中執委側は「地本三役と話しをしたい。このまま会場に入る訳にはゆかない」ということで、西森副委員長が経過報告中であるため、関川委員長と中野書記長が対応した。中執側は、「青年部を入れなければわれわれも入らない」と繰り返すのみで、何等明確な根拠を示さなかった。地本としては、「三月六日の時点で『三役のうち一名』が第五三回定期地委に派遣すると通告を受けたし、受け入れることを明らかにした」「しかし、『組織問題』の発端であり敵対してきた青年部を連れてくるのは、公式の機関会議を破壊にきたとしか受けとめられない。青年部の入場は断わる」「中執

これが動労の実態だ
中執の上に青年部があるのか

われわれは、今日の動労の体質を見た。なぜに中執は「青年部を入れなければ入れないのか」なぜに「正々堂々と討論しないのか」中央本部は答えるべきだ。

しかも室井(東京地青副部長)伊藤(東京地青、前関東常任)以外名前も役職もわからず、千葉地本から聞いたとしても、パスの提示もこぼみ名前すら明らかに出来ないのだ。

これが中央本部の組織指導なのか。第五三回千葉地本定期委員会は、この明白な破壊策動を毅然とした対応で粉碎し、この圧倒的な成功をもって、さらに団結を打ち固め、千葉地本排除＝破壊策動を粉碎するために、一四〇〇名組合員・家族の総力をもって闘い抜こう。